

第七十一回卒業証書授与式 式辞

中庭に咲いていた梅の花も盛りを過ぎ、桜のつぼみが、春の訪れを感じさせる今日の良き日に、晴れの卒業式を迎えられた第七十一期生の皆さん、卒業おめでとうございます。

そして、今日の良き日を迎えるまで、子どもたちの健やかな成長を支えてこられました保護者の皆様方におかれましては、感慨もひとしおのことと思います。本日は、誠におめでとうございます。

新型コロナウイルス感染症拡大防止のための大阪市の方針が二月二十七日に示され、二日後の二月二十九日より大阪市立のすべての学校園が臨時休業の措置となりました。卒業生の皆さんも突然のことで驚かれたことと思います。私たち教職員もたいへん混乱したことは確かです。

大阪市の方針が示された二月二十七日の夜遅くに、私の携帯に教職員の一人から「数名の教職員を代表して」ということで連絡がありました。その内容は、「あまりにも突然すぎる臨時休業の措置であることから、せめて明日に『卒業生を送る会』をさせてもらうわけにはいかないでしょうか」「全校朝礼も学年朝礼も今学期いっぱいには中止にするという学校の方針を示されたばかりですが、卒業生と在校生と一緒に生活できる最後の日となるということなのでお考えください」「よろしくお願いします」というものした。

そうした教職員の強い思いもあり、翌日の二十八日の三限目に急きょ『卒業生を送る会』を行うことになりました。練習も十分でなく、また、いきなりの実施であったにも関わらず、あれだけの立派な会ができたことに私はたいへん驚きました。北稜中学校の生徒の持つ優しさや力に感動し、実施して本当に良かったと思いました。

九年前の三月十一日には、一万八千人を超える犠牲者が出た東日本大震災があり、私たちは多くのことを学びました。先月には、地震に備えた『防災教室』を予定していましたが、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、やむを得ず中止としました。自然災害のみならず、感染症などの様々な危機から自分自身の命を守ること、家族・友だち・地域の方々と協力してお互いの命を大切にしていくことが、生きていくうえで最も大切なことであると考えています。卒業の祝辞に先立って、自然災害・感染症で犠牲となられた方々への「哀悼の意」を表するとともに、新型コロナウイルス感染症の早期の終息を心より願っています。

さて、私は、昨年四月に北稜中学校の校長に着任し、三年生の皆さんとは、わずか一年間のつながりでありましたが、とても楽しい経験をさせてくれたことに本当に感謝しています。印象に残っていることはたくさんありますが、特に修学旅行の夜のレクリエーションは、あまりのクオリティーの高さに驚くばかりでした。まるで、お笑いタレントのような二名の司会者が場を盛り上げてくれたかと思うと、空中で棒を操るマジシャンがあらわれ皆を驚かせ、さらには、イギリスのロックバンド『クイーン』のフレディー・マーキュリーまでが登場。手に書いた台詞を棒読みするドタバタ劇あり、本格的なとても美しいパレートの発表あり、最後には、人気アイドルグループの『トゥワイス(TWICE)』までが登場し、最後にはYMCAをみんなで歌って踊って締めくくるといったものでした。私は、あまりのすごさに、大笑いしながらも写真を撮り続け、学校のホームページにリアルタイムでアップしました。その時のアクセス数がなんと北稜中学校過去最高の1,000アクセスを超えており、家庭にいる保護者の皆さんにも、その場の楽しい雰囲気は味わっていただけ

たのではないかと思っています。

学習面・生活面・学校行事など、楽しい思い出は、数えあげればきりはありませんが、あらゆることに一生懸命に取り組んでいる姿をまのあたりにして、北稜中学校の先輩方が築いてくれた良き伝統を卒業生の皆さんが見事に引き継いでくれていることを強く感じました。体育大会では、一生懸命、真剣に取り組んだことで、競技の判定をめぐってトラブルもありましたが、今となれば良き思い出となっていることと思います。

以前、全校集会で『情けは人のためならず』ということわざの意味を、お話したことがあります。このことわざには、人に親切にすれば、その相手のためになるだけではなく、やがては良い報いとなって自分に返ってくるという意味があります。親切にしている人は、親切にした相手からだけではなく、その様子を見ていた周囲の人からも親近感を持たれ、優しくされるということは、科学的にも実証されています。優しい人が多くいる集団は、優しさの交換が活発に行われて、優しさに包まれながら生活できるということです。北稜中学校の生徒の皆さんは、一人一人の性格の違いや能力、育った環境の違いを十分に理解しながら、お互いを認め合い、みんなで協力しあえる『優しさ』があります。この『優しさ』こそ、これからの社会で生きていくうえで最も必要なことだと私は考えています。

今年、オリンピック・パラリンピックイヤーです。五年後の二〇二五年には、大阪で万国博覧会が開催され、世界中から多くの人々が日本にやってきます。今、卒業生の皆さんは、中学校という小さな社会の中で生活をしてきましたが、義務教育を卒業すれば、さらに大きな社会で生活をしていくこととなります。これからは、君たちのような『優しい心』を持った人が、それぞれの文化や言語、国籍や年齢・性別の違い、障がいの有無に関わらず、それぞれの人の持つ良さや能力が最大限に発揮できる社会を創ってほしいと心より願っています。

今回の『第七十一回卒業証書授与式』は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、例年とは違った形での実施となりましたが、本日、参加をご遠慮いただいた来賓の皆様方からは、「卒業式に参列できなかったことは残念ですが、卒業生の皆さんが新たな進路で素晴らしいスタートが切れることを心より願っています」という声を事前に聞かせていただきました。出席を予定していた在校生も、学校行事や部活動などでお世話になった先輩への感謝の気持ちを卒業式に参列することで表したかったことと思います。五年後、十年後、二十年後、皆さんが同窓会で集まった時に「僕たちの・私たちの中学校の卒業式は、新型コロナウイルスのため、臨時休業の中で実施された」ということは、必ず話題となるはずですが、来賓・在校生の参列のない少しさみしい式典ではありますが、「印象に残る卒業式であった」とポジティブに考えることも必要ではないでしょうか。

結びに、卒業後は次の社会で新しい仲間と良い関係を築いていくことが大切です。振り返るのは別れの時だけ、つまり卒業の時だけで、それより後は、前を向いてしっかりと歩んでほしいと願っています。卒業生の皆さんに良き友がたくさんできることを願って、学校長の式辞といたします。

令和二年三月十三日

大阪市立北稜中学校 校長 山咲進一